

まえがき

一国の総理大臣を「安倍ン丹」などとお呼びした無礼を、まず、お詫びします。無礼そのものですから。

ではありますが、凡夫の習い、言わせていただきたい言い訳がございます。このように言わしめる安倍首相の不実です。それをご納得いただきたく、川柳を並べましたので、順次、ご鑑賞のほどお願いいたします。

そもそも、川柳とは何でしょうか。それも分からないまま、十年も作って来てしまいました。ですが、写真に似ていると、思うことがあります。起きている事実や、存在の本質を見抜き、これを表すのにどの角度から、どの大きさを、どんな光の中で、切り取るのかを悩むのが写真創造だと思うのです。

同じように、本質をどの言葉を使い、どの順番で並べ、どう全体として響かせるのが川柳作りです。ではどうしたら、本質を見抜けるのでしょうか。それは閃ひらめきとしか言いようがないようです。

高校の教員在職中、試験監督をしていると、何人かが怪しい動きをしています。どうしようかと、暫し、思案しました。浮かんだアイデアが川柳を黒板に書くことでした。書き出すと、生徒たちが何事かと黒板に注目し始めます。

カンニングやりて虚しき家路かな

が、とっさに浮かび出ました。閃きだと言っても、何の種がないままでは浮かびません。「彼らは、帰り道に、後悔するだろうな」と思いました。何の罪悪も感じないとは思えなかったのです。これが種です。

もし、川柳に神髄があるとすれば、それは「誰もが今日より明日を良く生きたいと願っているという人間観」です。立川談志さんの「落語は人間の業の肯定だ」と重なるところがあるかもしれません。心の底にある生徒の性根を見ていました。

しかし今、この人間観を揺るがす方々が政治を動かしています。そんな思いに陰鬱な日々が続きます。「カンニングやりて虚しき家路かな」との板書を見て生徒たちは、くすくすと笑いだしました。カンニングをしていない子たちです。彼らも仲間のカンニングに気付いていたのです。そして、怪しい動きはなくなりました。

政治家の皆さんへの「カンニングやりて虚しき家路かな」がこの川柳集です。

せめて、見せ掛けや、隠蔽、誤魔化しを止めていただきたい。そうそう、原則の棚上げと解釈の拡大が一番よくございません。

より良い明日のために、憲法が示す民主主義＝国民主権と基本的人権、そして平和主義に従い行動していただきたい、これが一番の願いであります。

しかし、それが一番怪しいのでございます。止めて欲しいことを書き上げていったら、もう一冊必要になります…。

そういうことで、安倍政権に怒りを感じておられる方は勿論、もやもやを感じている、不安になりだした、関心を持つようになった方々に目を通していただきたく思います。

さあ、とりあえずは次の一ページをお開きください。

2020年1月5日 八角宗林